

【テーマ】

探究的な「ふるさと学習」の充実を図るために、どのように地域の人材や資源を活用した授業を工夫することができるか、アイデアを出し合う。

- 1年グループ：「冬あそびを楽しもう」…子ども達が考えた遊びに使うものを作る活動も予定。昔遊びに限らずいろいろな遊びや、遊びを教えて下さる方を募集している。



- ・まず、子ども達がしてみたいことをいっばい出すことが大切。
→いろいろ遊んでみてから、新しい遊びを生み出すとよい。（体育や休憩時間に体験）
→試行錯誤して身近にあるものを工夫して遊ぶ。
- ・例えば…みかんとり・大野すごろく・いもむし・ぐるぐるジャンケン・大根ぬき
大きな凧揚げ・大きな紙飛行機（田野さん）・わりばしでっぽう
竹ぼっくり・竹とんぼ・ぼんおどり
- ・わらべ歌はどうですか。（ものを使わず遊べます。）
- ・学習支援のメンバー・老人クラブ・放課後子ども教室の支援の方→松岡さんから情報提供していただける。

- 2年グループ：「もっとなかよしまちたけん」…気付かないところで自分たちを支えて下さっている人と出会わせたい。インタビュー活動を仕組み、感謝も伝えていきたい。



- ・登下校の見守り・読み聞かせボランティアの方以外にも、学級園や委員会の栽培など環境整備でお世話になっている、PTAサークルシャベルの方にも、お願いできる。
- ・区ごとに町探検のサポートすることもできる。（区長さんから依頼）

- 3年グループ：「市の様子と人々のくらしのうつりかわり」…大野の町の昔（大野陸軍病院跡地）・町の移り変わり・地形などの変化に気付かせたい【社会】



- ・大野に伝わるものとして、宮島八景・盆踊り・烏神太鼓・大野町誌（大頭神社・むかえ地藏）・延命寺（宮島口）がある。→氏子会・歴史ガイドの会に相談できる。
- ・昔、学校の前にお店があった。周りはほぼ田んぼ。西地区・宮島口に店が多かった。
- ・まるくる周辺は、竹を組んで埋め立てていた。
- ・永慶寺川は、昭和時代に氾濫したことがある。…など昔の地形について調べるのも面白い。
- ・消防団・消防倉庫の見学なら場所も近いので、体験活動に取り入れられそう。

- **4年グループ：「災害に備えよう」**…地域に出向いて体験することなどを通して、知識だけでなく、自分たちの身に起こった時の備え（こんなことを考えておくといい）をゴールにしたい。



- ・「自助」のための力をつける、学習過程を考えていくとよい。
 - ①昔とは、天候の変化の仕方や子ども達の生活スタイルが大きく変わってきている。
 - ②まず、自分の住んでいる場所の環境を知ることから始める。
（地形・施設・補給場等・どんな人がどこへ行けばいるのか）
 - ③災害時安心して生活できる知識・経験（3～4日しのぐための知識）を身に付けさせる。
 - ④避難方法について考える。
- ・地域の回覧で発信することができる。

- **5年グループ：「サシュラン三ツ星ランチを考えよう」**…栄養教諭とも連携して、地域の特産物についてまず知る。その魅力（児童の考えたこと、まとめたもの）を発信するよい機会がないか、アイデアをいただきたい。



- ・考えたメニューは、地域にでる？
- ・考えた料理を実際作って食べる体験ができるとよい。
- ・郷土料理（お国自慢料理）をお年寄りから教えてもらう活動もできるのでは。
- ・地域の回覧版に「子ども回覧」として出すことは可能である。
- ・集会所・区民まつりでのアピールもできる。

- **6年グループ：「大野の今を見直そう」**…西国街道をたどる体験を通して、地域の歴史・史跡について知る。→地域の資料はないか。調べてまとめたものを発信する場について情報がほしい。



- ・子ども達が町の中で見た不思議を地図に貼る
地域でなくなっていくものに着目する。
- ・図書館で廿日市市の古地図を見て、歴史学習や防災に生かす。
- ・現在も史跡に関わっている専門家から話を聞く。
- ・置いておいて手に取ってもらう資料を作成したときは、読んでいただいた方にアンケートを書いてもらう。まるくるや市民センターのイベントに合わせて掲示。
- ・地域の行事に参加して、直接発表の場があるとよい。
- ・毎年このテーマでの学習なのであれば、去年のものをもとに、よりよいものに積み重ねていくとよい。